

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年9月9日

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C		
横断的な課題	大規模地震・噴火・水害等の発生時における対策の充実・強化						
地域重点政策	大規模地震・噴火・水害等の発生時における対策の充実・強化					松本地域振興局	
実施機関	松本地域振興局総務管理課・松本保健福祉事務所福祉課			担当課	所属	松本地域振興局総務管理課	
事業名	糸魚川-静岡構造線断層帯等による大規模地震を想定した防災意識醸成のための事業				電話	0263-40-1903	
					E-mail	matsuchi-kenmin@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	防災意識醸成					
	現状と課題	・牛伏寺断層を含む糸魚川-静岡構造線断層帯や活火山である焼岳、乗鞍岳等を有する松本地域における松本管内の自治体・住民への防災意識、災害対応能力の向上を図る。 ・高齢化率が50%を超える地域で発生した能登半島地震において、支援を要する被災者に様々な配慮が必要である等避難に際しての課題が浮き彫りとなった。要支援者避難のため「個別避難計画」の作成が令和7年度までの5年間で市町村の努力義務となっているが、令和5年10月現在で、策定済みの県内市町村は6市町村のみであり、21市町村は未策定となっている。管内でも策定は進んでおらず、防災部門と福祉部門が連携して策定を進めていく必要がある。					
	内容 (変更後の内容)	○防災意識向上のための学習会の開催 開催日: 令和6年8月20日(火) 会場: 松本合同庁舎講堂 対象者: 行政機関の防災・福祉担当者 講演1 講師: 小山 真紀(岐阜大学地域減災研究センター長) 演題: 能登半島地震からみる、福祉の視点からの避難所運営の課題 講演2 講師: 立木 茂雄 同志社大学教授 演題: 防災と福祉の連結～個別避難計画の作成に向けて～ ※講演会で、松本保健福祉事務所福祉課との共催とし、福祉部門にも参加を呼び掛ける					
	事業期間	令和6年8月					
事業費等	(単位: 円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	令和6年度松本地域振興局防災学習会	自治体防災・福祉担当者向け講演会	118,250	・報償費(講師謝礼): 25,800円×2=51,600円 ・旅費: 16,500円(岐阜～松本) 43,220円(兵庫～松本)※宿泊費込 ・需用費: 配布・啓発用品 6,930円			
	合 計		118,250				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	参加者の満足度(アンケート調査)		80%	100%	☒ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成		
事業実績・成果	能登半島の避難所の状況や災害時における要支援者の避難時に有効とされる「個別避難計画」の作成支援をテーマとしたことで、松本保健福祉事務所との共催とし、市町村の防災部局だけでなく、福祉部局にも訴求でき、管内(外)職員の防災意識向上を図れた。 ・聴講者数 92名(防災部局18名、福祉部局31名、松本地方部職員37名、その他6名) 【アンケートより】 ・能登の状況について様々な話を聞いているが、避難所・福祉の観点で新たな気づきがあった。 ・在宅避難者の課題を認識した。・避難所の実態が知れて良かった。 ・災害は「社会現象」だという言葉が印象的だった。・連携は結果であり、越境・連結・協働の必要性を感じた。 ・防災が福祉を理解しておく必要性を感じた。						
今後の方向性	・避難所の運営や個別避難計画に限らず、市町村担当者が学べる機会が少ないので、引き続き最新の情報などを踏まえた災害対応全般について、学べる場を提供していく必要がある。						